

平成22年度事業評価シート(ハード事業)

NO. 2

評価2 ハード

1 事業名等(Plan 1)

事業名	高山駅周辺土地区画整理事業											
所属名	基盤整備部 駅周辺整備課 区画整理グループ											
第七次総合計画	政策	1	計画的な土地利用をめざして	分野	1	土地利用	基本施策	1	住みよい生活環境の実現と地域全体の秩序ある発展を図る	施策	2	市街地地域の土地利用
予算科目	7	4	2	土地区画整理	費	74200	駅周辺土地区画整理	事業				
					費			事業				
					費			事業				
根拠条例・実施要綱・担当部門計画等	高山都市計画事業高山駅周辺土地区画整理事業											
事業の実施主体	<input type="radio"/> 市 <input type="radio"/> 市以外→											
事業の実施方法	<input type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> 指定管理 <input type="radio"/> 業務委託 <input type="radio"/> 団体等補助 <input type="radio"/> その他→											

2 事業の目的・概要(Plan 2)

目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的	誰のために(対象)	市民、観光客を含めた高山駅周辺を利用するすべての人	受益者数	— 人
概要	対象をどういう状態にしたいのか(意図)	高山駅周辺において都市計画道路や駅前広場などの公共施設の整備、商業・業務施設の拠点的な整備、良好な住環境の整備など飛騨の玄関口としてふさわしい拠点の形成を図る。		
概要	事業の実施手法、手順	都市計画道路(花里本母線・西之一色花岡線・花里牧ヶ洞線)約1.2km、区画道路(JRアンダーパス含む)約1.4km、駅前広場(駅東4,100㎡、駅西3,400㎡)他を整備する。		
概要	事業始期・終期	始期: 10 年度から 終期: 25 年度まで 設定なし		
今年度の改善・改革ポイント	前年度の評価結果、指示事項等を踏まえ記入 JR、県、中部地方整備局と協議を行ない、鉄道事業者、岐阜県、国土交通省との円滑な事業により、計画的に事業を進める。			

3 事業費の推移・結果(Do)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
総合計画計画額(当初)		1,500,000	1,100,000	611,130	1,000,000	1,000,000
総合計画計画額(計画額)		1,500,000	1,100,000	611,130	1,000,000	1,000,000
財源	事業費	2,463,500	530,100	608,000		
	(計画・予算・見込・決算額)	1,929,269	456,424			
	国庫支出金	1,150,815	290,045	422,522		
	県支出金	1,031,330	210,090			
	地方債	120,000		3,675		
	受益者負担	172,695	10,845			
	繰入					
	一般財源	1,192,685	240,055	181,803		
		725,244	235,489			
	H17国勢調査	96,231 人 32,174 世帯	※コスト→行政活動の単位当たり経費算出、変動を経年比較により、効率性評価			
受益者負担率(受益者負担/事業費)	単位 %	—	—			
市民1人当たりコスト(事業費/H17人口)	単位 円/人	20,048	4,743			
1世帯当たりコスト(事業費/H17世帯)	単位 円/世帯	59,964	14,186			
受益者1人当たりコスト(事業費/指標)	単位 円/人					
↓ その他(空欄にコスト指標名記入、事業費をベースとして単位当たりコストを算出)	単位 円/人					

(成果面)

活動・成果指標	活動指標(投入した行政資源を使い、どんな活動を行ったか、どのようなサービスを市民に提供したかを表す指標)	指標名	宅地供給面積						資料・出展算出式	仮換地使用収益開始通知	単位	m ²
	活動	目標値	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	活動の方向		
	実績値	—	—	20,001	4,204	2,291	9,763			↑		
成果指標(活動やサービスを行った結果、市民にどのような影響(効果)をどれだけ与えたかを表す指標)	指標名	宅地利用面積/宅地供給面積						資料・出展算出式	仮換地使用収益開始通知	単位	%	
成果	目標値	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	成果の方向			
実績値	—	—	85	90	95	100			↑			
達成率	—	—	0.0	0.0	0.0	0.0						

3 事業費の推移・結果(Do)

前年度までの実績(累計)	対象・手段	建物補償調査 減価補償 物件移転補償 都市計画道路、区画道路整備工事 JRアンダーバス工事委託	対象・手段	物件移転補償 都市計画道路花里本母線整備工事 JRアンダーバス工事委託 事業用地整備工事
	事業費	9,451,525 千円 (内容) 事務費等含む	608,000 千円 (内容)	
	受益者負担	その他 千円 (内容)	その他 千円 (内容)	

(成果面)

進捗評価	項目	評価内容(算定式)			進捗率
	本年度	整備状況 事業費状況	整備見込 20,001 / 整備目標 20,001 単位 m ²	決算見込 / 予算額 608,000 単位 千円	100.00
	本年度までの累計	整備状況 事業費状況	整備累計 39,164.21 / 全体計画 55,405.29 単位 m ²	累計 10,059,525 / 全計画額 14,181,000 単位 千円	70.9
事業の進捗率の考え方		全体事業費に基づいて考える。			
進捗結果・理由		事業費ベースで計画どおりである。			
○ 計画どおり □ 未達成		該当項目に「○」表示			

4 分析・評価(Check)

①事業の目的評価(事業の目的・概要に対する妥当性から事業の必要性を評価)

(現状及び判定理由) 土地区画整理事業認可を受けており、飛騨地域の玄関口としてふさわしい都市空間の整備と駅東西地域の一体的な整備を行ない、中心市街地の再生を図る必要性が高い。

判定	目的評価
A:非常に高い	A
B:高い	
C:低い	
D:非常に低い	

②コスト面評価(事業の推移、コスト指標の結果からコスト面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

減少	維持	1	増加
(判定理由) 補助金を有効に活用している。			

③成果面	増加	維持	減少
拡大		○	
維持			
減少			

コスト・成果ポジション

B 第2水準

③成果面評価(活動指標・成果指標から成果面を評価)

該当項目「1」入力(注 平成20年度から平成22年度第一四半期までの推移から判断)

拡大	1	維持	減少
(判定理由) JRアンダーパスの開通により、渋滞緩和、駅東西地域の一体化の効果が表われている。			

目的評価「A・B」かつコスト・成果「第1水準」	→ I 「良い」	良好な水準を維持
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第2水準」	→ II 「やや良い」	「I」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第3水準」	→ III 「普通」	「II」の水準に向けた改善が必要
目的評価「A・B」かつコスト・成果「第4水準」	→ IV 「やや良くない」	「III」の水準に向けた改善が必要
目的評価「C・D」もしくはコスト・成果「第5水準」	→ V 「良くない」	「IV」の水準に向けた改善もしくは事業の休止、廃止などの検討が必要

一次評価 主管課

評価区分

II

判断の理由及び課題問題点
JRアンダーパス、区画道路の整備により、一定の成果を果たしている。
今後は、高山駅舎、自由通路、駅東西広場に関わる関係機関との協議を早期に進め、事業を計画どおりに進める必要がある。

5 今後の方向性(Action)

活動の方針	評価結果に対する改善提案(下記チェック)	計画どおり	改善・継続	終期設定	休止	廃止	完了
	駅舎・自由通路のJR協議を早期に進め、計画的に事業を進める。						
活動の方針	次年度実施方針	駅舎・自由通路のJR協議を早期に進め、計画的に事業を進める。					

総合評価		
コスト	成果	評価区分
高	高	III
「II」以上の水準に向けた改善が必要		
本事業は高山駅周辺を利用するすべての人にとって波及効果があり、地域全体の秩序ある発展のために必要な事業である。アンダーパスの開通により、駅東西の一体化が図られ、事業効果が現れてきたところであるが、早期の完成を目指し、計画している工程及びコストで事業を実施できるよう関係機関との協議を更に進めていく必要がある。		